

# 正解のない問題にいかに対処するか

日本認知科学会も社会の超々高齢化の波の中にあり、創立時の会員も多くが高齢者となっている。

高齢化と情報化の進展する社会にあって、例えば認知症になった親の幸福を子としてはどう考えたらよいか、言ってもわかってくれない相手にどう対処したらよいかといった、認知科学の中でもこれまで全く触れられていなかった問題が生じる。こうした問題は認知科学研究者自身の身にも降りかかっており、一方では通常の、あるいはこれまで常識とされてきた研究や学会活動を困難にする反面、研究や認知的な活動一般への今までになかったアプローチを追求する新たな動機づけと機会を提供している。

高齢の研究者が研究者コミュニティや社会にどう貢献できるかは今後極めて重要な問題になると思われるがこれといった答えは得られていない。

## 高齢者のあなたにも、未来の高齢者のあなたにも、いま考えるべきことがある

全体構成

1. 依頼発表(2件)25分発表+5分質疑 60分

齋藤洋典(中部大学)正解のない問題を考える意義

辻智(成城大学)コグニティブ・コンピューティングを文系大学のデータサイエンスの授業で使う効果

2. 公募発表(1件)20分発表+10分質疑 30分

水津 功(愛知県立芸術大学)・齋藤 洋典(中部大学)

共進化のデザイン: 高齢者施設デザインの意味決定における介護士の役割とは何か?

3. 参加者ディスカッション 60分

上記の発表に触発されつつ、参加者ディスカッションの時間を十分とって、以下のようなテーマについても参加者とアイデアを共有したい。

- 正解のない問題への挑戦に誘う方法
- 深く知りたいと願う心の動き
- 意見や主観的な記述の相互関連づけ
- 対立する意見のデータベース
- 高齢者と若年者の傍目八目的な関係
- 高齢者と若年者の協働がもたらす異質の融合による創造性
- 高齢者自身による加齢と長寿社会の一人称研究と若年者によるレビュー
- 高齢化の進展によって向上する認知能力